２．子どもに人気のお医者さん

～診療報酬は子どもの笑顔～

グループ名　　おもちゃ病院チャチャチャ
代表者　　荒木泰明

①　活動の目的

「おもちゃ病院チャチャチャ」は、仙台市内で壊れたおもちゃを無料で治す病院を開設しているボランティア・グループです。毎月、第二土曜日に仙台市シルバーセンター一階を会場に、「こわれたおもちゃをなおします」の看板を掲げ、活動しています。

メンバーは平成１８年に仙台市中央市民センターで行われた「おもちゃドクター養成講座」の卒業生を中心に約十名（平成２２年１０月現在）です。

養成講座では初めは何も分からないところからスタートし、全部で五回の講座で理論と実践を学びました。「チャチャチャ」というサークル名は童謡の『おもちゃのチャチャチャ』から付けたもので、会場のＢＧＭとしても流れています。活動の開始から約四年、毎回、会場は色とりどりのおもちゃと子どもたちでいっぱいです。

②　活動概要

おもちゃ病院では、ボランティアのメンバーを皆「ドクター」と呼び、壊れたおもちゃを修理することを「手術」と言っています。

予約のうえ持ち込まれるおもちゃは新幹線、ショベルカー、アンパンマン、オルゴール、ベビーミシン、ラジコンカーなど様々。

取扱説明書も無い手探りの状態で治療を進めるドクターにとって欠かせないのは、その経験と替えの部品です。モーターが壊れていればモーターを替え、電池の接触が悪ければ、接触部分の錆を削っていきます。

修理に使う部品は家庭電化製品等から調達し、できないものはメーカーに照会し、そこにも無ければ自分で作ってしまうのです。

そんなドクターは子どもたちにとって魔法使い。キラキラと目を輝かせてその治療に見入ります。ドクターも、てこずったおもちゃが元どおりに動き出したときは頬が緩みます。

通常の開設時間は二時間半で、予約は平均で十から十五件ほど来ます。でも治療ができるドクターの数は六～七人。限られた診察時間中に治療が終わらないと、どうしても「入院」が増えてしまいます。入院すると各ドクターは自宅に持ち帰り、そこで治療されます。

「チャチャチャ」では、病院をもっとほしいという要望に応えて、平成２２年４月からは、毎月第三土曜日にも別会場で病院を開設するようになりました。毎回、違ったおもちゃと接する度に、ドクターはますます腕を磨かなければと痛感しています。

おもちゃ病院開設記録（平成２１年１０月から２２年９月）　依頼総件数　３０７件

番号	年月日	場所	件数		番号	年月日	場所	件数
01	21.10.10	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	12		15	22.05.08	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	11
02	11.14	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	11		16	05.15	のびすく長町南	16
03	11.22	のびすく仙台	10		17	06.12	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	14
04	11.28	のびすく長町南	14		18	06.19	のびすく長町南	12
05	12.12	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	10		19	07.10	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	10
06	12.19	のびすく長町南	8		20	07.17	のびすく長町南	13
07	22.01.09	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	8		21	07.24	のびすく長町南	9
08	01.16	のびすく長町南	12		22	07.24	七郷市民ｾﾝﾀｰ	7
09	02.13	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	13		23	07.30	富沢市民ｾﾝﾀｰ	8
10	02.20	のびすく長町南	14		24	08.12	のびすく長町南	6
11	03.13	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	16		25	08.14	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	9
12	03.20	のびすく長町南	12		26	09.11	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	10
13	04.10	仙台市ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰ	12		27	09.18	のびすく長町南	12
14	04.17	のびすく長町南	10		28	09.26	仙台ﾒﾃﾞｨｱ･ﾃｰｸ	8
		小計	１６２				小計	１４５

※「のびすく仙台」及び「のびすく長町南」は仙台市が設置する子育て支援施設

２００９年（平成２１年）６月１７日
ＮＨＫテレビ番組「情報パレット」で紹介

③　決算報告書　　単位：円

収入	
大同生命厚生事業団助成金	１００，０００
支出	
・ユニホーム・エプロン	４０，０００（20 組）
・卓上ボール盤	９，８００（1 台）
・パーツケース	９，０００（１台）
・ポスター、カルテ等コピー代	１２，０００
・修理部材（プラリペア、コンダクティブペン等）	２７，１８０
・事務用品	２，０２０
合計	１００，０００

修理したおもちゃについて説明するボランティア

傷んだおもちゃ再生

仙台 ボランティア仕事始め

壊れたおもちゃの修理を手掛けるボランティアサークル「おもちゃ病院チャチャチャ」（仙台市宮城野区）が十日、青葉区の市シルバーセンターで、今年初めての修理イベントを開いた。

会社員ら「おもちゃドクター」七人が担当。持ち込まれたキーボードや模型自動車、電動縫いぐるみなど七品を「治療」。故障の原因で多かったのは電気配線の不具合で、配線をハンダ付けしたり、新品と交換したりして直した。

模型自動車の修理を頼んだ太白区の主婦（三八）は「子どもがよく壊してしまうので、そのたびに修理をお願いしている。とてもありがたい」と話した。

イベントは毎月第二土曜日に市シルバーセンターで実施。予約制で修理代は無料。連絡先は022（255）1570。

河北新報　２００９年
（平成２１年）
１月１２日朝刊掲載
ボランティア　仕事始め

ウイークリー eye

河北新報 2008年8月2日（夕刊）

おもちゃの病院

〝診療報酬〟は笑顔

「車が動かない」「音が鳴らないの」。心配そうな顔つきの子どもに付き添われて来院したのは、ラジコンやぬいぐるみといった〝患者〟たち。ドライバーを手にした名医が早速、治療に取り掛かった。「きっと直るよ」

ここはボランティアサークル「チャチャチャ」（荒木泰明代表）が運営する「おもちゃ病院」。五、六人のドクターが毎月一回、仙台市宮城野区の中央市民センターなどで壊れたおもちゃの無料修理に当たっている。

毎回十件ほど持ち込まれるおもちゃの不具合の原因はさまざま。電池の不良やコードの断線などが大半だが、その場で直らない場合は入院してもらうことも。スタッフの鎌田博明さん（六五）は「直った時の充実感と子どもたちの笑顔が最高の診療報酬です」と語る。

元気になったおもちゃがまた一つ子どもたちの元へ帰ってゆく。楽しい思い出とともに、これからも大切にね。

河北新報　2008年（平成20年）8月2日（土）夕刊掲載
おもちゃ病院チャチャチャ開設